

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(109)、(142)」

2. 日時：令和3年10月21日（木）16時00分～18時00分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、磯田係員、松末技術参与、杉野首席技術研究調査官、道口主任技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他11名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（補足説明資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）データ集
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（補足説明資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁のニシキです。それではヒアリングの方始めたいと思います。本日は中部電力から出てきております浜岡原子力発電所の津浪基準津波の策定後のプレート間地震の津波評価についてと
0:00:18	もう1点は三つ記録及び津波堆積物に関する調査についての2辺ですので、御説明をいただく前にちょっとこちらのほうから資料の確認をさせていただきたいと思いますので、
0:00:30	お待ちください。
0:00:36	規制庁サグチですけども、少しすみませんいただいた資料がちょっと
0:00:42	電子イトウ
0:00:44	それから、紙で若干違うところがあったりなんかするので、
0:00:49	どっちが正しいのかっていうのをまず確認をさせていただきたいんですけど。
0:00:55	もしですね、電子見れる状態であれば、これは東京支社の方でも構いませんけれども、
0:01:04	回答すぐにできないようであればこのままヒアリングちゅうかまたヒアリングを終わった後の後日
0:01:12	ちょっと
0:01:14	ご連絡いただきたいんですけど。
0:01:16	具体的に言うとですね。
0:01:19	プレート間地震の津波評価の補足資料のほうですけども、このH4のCa-254000
0:01:28	これの
0:01:35	151ページ。
0:01:37	ちょっと細かいところからまずいんですけど。
0:01:43	右肩が紙ベースは、第615回資料1-1。
0:01:50	P6再掲となっていて、
0:01:53	このページの一番最後に、
0:01:55	〇のところでは歴史記録及び津波堆積物調査から推定される津波とかと思う。
0:02:02	比較分析っていうのがあるんですけど、電磁のほうは、
0:02:06	これ何も
0:02:08	なくてですね。
0:02:10	この一番下の歴史記録及び津波対策等云々っていうのが消えている状態。
0:02:18	それから、
0:02:21	170ページ
0:02:25	なんですけど、これも同じように、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:30	右肩上の第 650 ページ、15 回資料 1-1-P24 再掲っていうのが、確かこれ、
0:02:39	前回のかな 820 階か何かも再掲っていうのが、電子だったかな。いずれにしてもですね、一番下の紙ベースでは一番下の黄色の四角囲みがあるんですけど、これが電子ではなかったっていうのが、
0:02:56	ほかにもちょっとあるかもしれないんですけど、違う点です。それから
0:03:02	もう少しですね全体的な話をすると、この資料の 170 ページから 184 ページなんですけど。
0:03:10	これ、ページ番号がですね、全然こうなんっていうんですかね。
0:03:16	電子イトウ紙等で合っていないくて、
0:03:20	例えば 171 ページ、紙だと。
0:03:23	内閣府の最大クラスモデルの分析っていうことで、歴史記録及び津波堆積物調査から推定される津波高との比較とあってあるんですけど、電子の方は全然これ。
0:03:35	違うページの資料になっていて、当然ページ番号合ってるんですけど、なので、ちょっと資料として紙ベースと。
0:03:44	電子データとどちらが最新というのが正しいのかっていうのを、もし今すぐわかればちょっと教えていただきたいんですけど。
0:04:05	規制庁サグチですけども、もし今すぐにご回答ちょっとできないようであれば、別途ですね、例えばこのヒアリング中の際にでも確認していただければいいんですけど、どこかのタイミングで教えていただくなり、シェアリングを終わった後、また後日でも構いませんので、
0:04:23	ということでちょっとこの補足説明資料っていうのが今ちょっとどれが正しいものかがよくわからないので、
0:04:33	今日はこの御説明は、我々ちょっと聞けないかなと思ってますので、その他の資料は多分大丈夫かなとざっと見た感じですけど、と思うので、その他の資料ということであれば説明を聞きますけれども、ちょっとそれは確認をお願いします。
0:04:54	事務連絡アマンでございます。承知いたしました。すいませんちょっと我々が今残してる電子データでわからない、ちょっと確認をしてまた御説明をさせていただきます。
0:05:09	はい作成ちなみに今じゃあ間紙°C今措置を御社って紙お持ちですよ皆さん。
0:05:17	もし持ってなくて、電子の方だったらや逆に言うと、そういう確認もできるかなと思うんですけど先ほどの補足説明資料の 170。
0:05:29	1、アートね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:32	100 はず 150151 ページのほうがいいかな、151 ページの右肩に細径があるかないか。
0:05:40	紙ベース我々今もらってる間ベースは再掲っていうのがあるんですけど、確か電子データをこれ再掲とかが一切なかったような気がするんですけど。
0:05:51	再々債権者の修正になったな。
0:05:57	ちょっとその違いつて、
0:05:59	はい、中部電力の森です。こちらは
0:06:03	規制庁様に提出した後に移転していただいておりますので、電子データで時で見いただいているのと同じものを持っておりますので提出したものを一部こちらでも保管しておりますので、どちらでいただいても対応がつかないかとは思いますが、
0:06:19	今電子データのほうと提出した紙ベースの方とで少し違うバージョンがお送りしていただいていることをちょっと気づいておりませんでした。
0:06:31	そうですね。それ自体もおっしゃりたいと 151 ページのところ
0:06:36	紙ベースは再掲に確かになっておりまして、こちら側の見ている電子ベースでは一部修正になっています。
0:06:44	電子データのほうが最新だと思いますけれども、ちょっと確認させていただいて、どこが違うのかというところを改めてご連絡させていただきたいと思います。申し訳ありません。
0:06:57	はい。
0:06:59	サグチですけども、わかりましたありがとうございます。なので、はい、ちょっとまだ今、確認ができないということなので、ちょっと今日は補足説明資料のほうの
0:07:10	御説明あるかないかは別としてですねというのは我々ちょっと聞くことができませんので、それ以外でヒアリングを始めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。
0:07:24	中部電力アマノです承知いたしました。
0:07:34	はい。規制庁ニシキです。それでは説明のほうを始めていただければと思います。
0:07:41	中部電力アマノでございます。本日はお時間いただきましてありがとうございます。すいません補足説明資料のほうはモリモトが説明した通り、ちょっと紙が
0:07:53	古いデータなのではないかなと思いますが、確認してこちらはご回答させていただきます。本日は、6 月 4 日に実施いただきました第 981 回の審査会合でいただきましたコメントに対しての
0:08:08	回頭を整理して参りましたので御説明をさせていただきたいと思います。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:14	長年、
0:08:16	その点でございましたライズタイム 60 秒をしっかりと取り入れた評価について反映して参りましたので、御説明のほうをさせていただきます。プレート間地震の津波評価のは大体説明時間 45 分ほどいただきますのでそちらご説明させて、
0:08:34	いただいた上で質疑のほうをよろしくお願いいいたします。
0:08:42	中部電力のナガマツです。それでは浜岡原子力発電所を基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価についてのコメント回答について御説明します。
0:08:53	3 ページから 7 ページは、これまでの会合でのコメント一覧表で、
0:08:59	8 ページに前回会合のコメント一覧表を示します。
0:09:03	コメントは 4 点ございまして、
0:09:05	No.1、検討波源モデルの超滑り域等の設定
0:09:10	No.2 に日本海溝の手法を用いた波源モデルのパラメータ設定、
0:09:15	No.3 遷移領域を設けたモデル設定の妥当性、
0:09:20	No.4、海溝軸付近の滑りの不均質性の影響等になっています。
0:09:25	9 ページは、本日の説明内容です。
0:09:29	前回会合でいただいた No.1 から No.4 のコメントのうち、本日は最初に、No.4 コメント回答について個別に説明し、
0:09:38	続いてナンバー 4 以外のコメント回答を含めてプレート間地震の津波評価の全体を説明します。
0:09:46	10 ページはコメント回答の概要
0:09:49	11 ページは、
0:09:50	プレート間地震の津波評価の全体像とコメント回答との関係ですが、内容は後程各コメント回答とともに説明します。
0:10:01	12 ページはプレート間地震の津波評価の全体概要です。
0:10:05	ここでは、痕跡再現モデル検討波源モデルパラメータスタディにおけるモデルの設定
0:10:12	津波評価結果がどのようになっているのかを左から中へ右へ 10 名表現しております。また前回会合からの変更部分を黄色で示しています。
0:10:24	14 ページから No.4 コメント回答です。
0:10:28	15 ページは会合におけるコメントとコメント回答の概要で、
0:10:34	お答えは黄色の No.4 コメント海溝軸付近の滑りの不均質性の影響について説明します。
0:10:42	16 ページには、海溝軸から陸域までの距離を示しており、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:47	左の日本海溝では約 200km。
0:10:51	右の南海トラフでは約 170 から 50km、
0:10:56	敷地前面で約 50kmとなっています。
0:11:01	17 ページは、設置検討概要です。
0:11:04	一番上の箱ですが、前回会合において、
0:11:08	東北沖地震では海溝軸付近で顕著な滑りの不均質性が確認されている。
0:11:14	海溝軸からの距離が近ければ平均化されずに到達するので、小さな滑りの不均質であっても影響が出やすい。
0:11:23	国内外の巨大地震の津波JAが限られているので、中へトラフ軸から近い浜岡においては、敷地の津波評価に影響の大きい滑り量ライズタイムについて、さらなる不確かさを考慮して、裕度をもって設定する必要がある。
0:11:38	このコメントをいただきました。
0:11:40	これに対する検討方針ですが、
0:11:43	東北沖地震型の特性化モデルでは日本海溝軸付近において大きく滑った領域が長を滑り域として大きく一様な滑りを持つ領域に特性化されてパラメータスタディが検討され、
0:11:58	観測記録との比較によりその妥当性が確認されている。
0:12:02	一方で、海溝軸付近において大きく滑った領域の内部の滑りは、
0:12:08	実際には不均質であることから、
0:12:10	海溝軸付近の
0:12:12	滑りの不均質性の影響について、海溝軸からの距離の観点を含めて検討することとしました。
0:12:20	検討内容としては①海溝軸付近の不均質性の影響に関する検討。
0:12:26	②プレート間地震の津波評価への影響を実施反映を実施しました。
0:12:33	最終的には、下の下線部ですが、前回会合におけるコメント及び国内外の Mw9 クラスの巨大地震津波の発生事例が限られていることを踏まえ、
0:12:45	さらなる不確かさとして敷地の津波評価に影響の大きい滑り量とライズタイムの組み合わせを国内外の Mw9 クラスの巨大地震津波の発生事例に対して、より慎重に裕度をもって設定することとし、
0:13:02	代表パラメータの検討による方法により検討された内閣府の最大クラスモデルの津波評価において、
0:13:09	ほかのパラメータの影響を代表するように、非常に大きく設定されている滑り量 37メートルとライズタイム 60 秒の組み合わせを

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:21	各種パラメータの網羅的検討による方法により検討している当社のプレート間地震の津波評価において、さらなる不確かさの考慮として検討することとしました。
0:13:32	18 ページは、
0:13:34	海溝軸付近の不均質性の影響に関する検討方、検討の検討方針です。
0:13:41	海溝軸付近の滑りの不均一性の影響について、実際に海溝軸付近の滑りの不均質性が確認された東北沖地震の津浪波源モデルを対象として、海溝軸付近の図中で、紫の破線で囲っております。
0:13:57	大きく滑った領域の断層滑りが左の一様なケースAと右の不均質なケースB等を設定し、両ケースによる津波評価結果の差異について海溝軸からの距離から影響の観点から比較しました。
0:14:14	ここでBの不均質なケースは海溝軸付近に不均質な滑り分布が推定されている東北沖地震の津波インバージョンモデルそのものとしておりまして、右の表に赤で示した小断層に対して大きな滑りの不均質性が設定されています。
0:14:32	これに対して、左の1、一応なケースは東北沖地震の特性化モデルにおいて、
0:14:39	一様な町を滑り域が前段面積の55%の領域に設定される事例を踏まえ、
0:14:47	右の東北沖地震の津波インバージョンモデルに対して、
0:14:51	海溝軸付近において大きく滑った全断面積の約5%の領域の紫の枠で囲っております部分の小断層の滑り量とライズタイムを一様に40m、150秒として設定しています。
0:15:08	19 ページは本検討の計算条件、
0:15:12	20 ページには計算結果として各ケースにおける最大上昇水位の平面分布を示しています。
0:15:20	左が一様なケース。
0:15:22	中央がB不均質なケース。
0:15:25	右が両者の比を表したものです。
0:15:28	左と中央の両ケースの最大上昇水位分布は全体としては大きな違いはありませんが、
0:15:35	右の比の図を見ると、不均質なケースでは赤い四角で示した一様なケースよりも大きな滑り量を設定した小断層と正対した陸域側及び沖合側において津波水位が大きく、
0:15:51	コンターが赤くなっていることが確認できます。
0:15:55	21 ページには、
0:15:57	各時刻の水位の平面分布を左から順に並べています。
0:16:02	上の一応なケースと中央のB不均質なケースを比べると、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:08	水位分布に大きな違いはなく、
0:16:11	また、
0:16:12	下に示す両ケースの水位の差分の平面分布を見ていただくと。
0:16:17	左端の図に赤い四角で示す、海溝軸付近の滑りの不均質性の影響のはめを赤線で取れずしておりますが、
0:16:26	これが平面的に広がりながら伝播していく様子が確認できます。
0:16:32	22 ページでは、この破面について並みの規制の検討をしています。
0:16:38	一般的におつきな沖合で発生する津波は水深が徐々に浅くなる海溝軸から陸域側では、左の概念図のように海底勾配によって並みの規制学説していく方向に直進する傾向が強くなるとされ、
0:16:54	中央の図のように波源から出た並みの規制は海岸線に向かって直進する形になります。
0:17:02	右の図は、先ほどの 2 ケースの津波水位の差分、すなわち不均質性の影響成分のための時刻歴を重ね描いたものです。
0:17:14	滑りの不均質性の影響成分について赤線で示す各時刻の
0:17:19	面と直行する黒破線で示した並みの規制を検討した結果、
0:17:25	滑りの不均質性の影響は推進がほぼ一樣な海溝軸から沖合側では並木線が放射以上になり、平面的に広がりながら伝播するのに対し、水深が徐々に浅くなる海溝軸から陸域側では、
0:17:41	海底勾配によって波規制は陸方向に直進していることが確認できます。
0:17:48	23 ページは、各時刻の水位の断面分布を海溝軸から沖合側でとったもので、
0:17:55	左上の図に赤い四角で示しています。大きな滑りを設定した小断層の沖合方向の断面でとった水の断面分布を左上から右下にかけて、各時刻のスナップショットとして締め並べています。
0:18:12	グラフの黒線は、の一樣なケース、緑線は不均質なケースを示しております。
0:18:18	オレンジでマークした海溝軸付近の津波波源で発生した津波の各時刻の波の頂点を結んだ線を右下のグラフに破線で示していますが、
0:18:29	海溝軸から離れるほど両ケースの水位分布は小さくなっているということがわかります。
0:18:36	24 ページは海溝軸から陸域側について、先ほどと同様に左上から右下にかけて、各時刻のスナップショットを示しています。
0:18:46	また右下のグラフですが、各時刻の波の頂点を結んだ発生を見ていただくと海溝軸から陸域側ではどの距離においても、黒と緑の両ケースの水位分布には違いが認められます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:01	25 ページには、最大上昇水位の断面分布を各小断層の海溝軸から沖合側で示したものです。
0:19:10	グラフの黒線は一応なケース、緑線は不均質なケースです。
0:19:17	例えば、火線赤色で示す大きな滑りを設定した小断層に対応する。
0:19:23	ピンクで明示しました右上の二つの断面を見ていただきますと、
0:19:27	推進がほぼ一樣な海溝軸から沖合側では最大上昇水位の違いは海溝軸付近で相対的に大きく沖合側に向かうにつれて小さくなり、検討している小断層のサイズ 50km × 25km よりも離れた約
0:19:45	100 から 200km の地点ではほぼなくなっています。
0:19:50	下の箱ですが、海溝軸付近の滑りの不均質性による影響は推進がほぼ一樣な海溝軸から沖合側では、津波が平面的に広がりながら伝播することに伴う幾何減衰によって海溝軸から離れに従い、徐々になくなっていることを確認しました。
0:20:09	一方、26 ページは水深が徐々に浅くなる海溝軸から陸域側に関する同様の分析です。
0:20:17	同じく赤色で示す大きい滑りを設定した小断層に対応する、右上の二つの断面を見ていただきますと、最大上昇水位の際は、
0:20:27	海溝軸から沖合側と異なり、海溝軸から約 100km 以上離れた地点でも認められます。
0:20:35	このことから、下の箱書きですが、
0:20:38	海溝軸付近の滑りの不均質性による影響は
0:20:41	推進が徐々に浅くなる海溝軸から陸域側では、
0:20:46	海底勾配があることによって津波が行く方向に直進する傾向が強く、
0:20:52	海溝軸から離れた地点でも影響があることを確認しました。
0:20:58	27 ページには補足として津波波源モデルの小断層よりも小さい滑りの不均質性の影響を示します。
0:21:05	左側の 5 台通る 2014 は東北沖地震の津波インバージョンモデルからグラフに示す滑り量のパワースペクトルを算出して近似曲線を検討し、Mw8 クラス以下の地震と同様に、
0:21:20	グラフの右方向の滑り量の波長の短い領域では急速な減衰傾向があり、
0:21:27	波源モデルの小断層よりも、
0:21:30	波長の短い成分は断層滑りの空間分布においてほとんど存在しないことが推定されています。
0:21:38	また右側の時裏 1963 は、水深を考慮した地殻変動量に対する水位変動量の応答率を理論的に検討し、グラフの曲線を示しています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:51	グラフの右方向の波長の短い成分では、応答率が小さくなっていることを示しています。
0:21:58	これらのことから、下の箱書きですが、津波インバージョンモデルの小断層よりも小さいですけど、実は、
0:22:05	断層滑りの空間分布においてほとんど存在しないと推定されているとともに、地殻変動量に対する水位変動量の応答率も小さく、津浪の初期水位にほとんど現れないと考えられます。
0:22:21	28 ページは①のまとめです。
0:22:23	3 ポツ目ですが、これこまでの検討から海溝軸付近の滑りの不均質性による影響は海溝軸から陸域側では、
0:22:32	海溝軸から沖合側で見られるような海溝軸からの距離の影響を見られず、
0:22:38	海溝軸から陸域までの距離が近いことによって特別な考慮する必要はないことを確認しました。
0:22:46	続いて 29 ページからは、②プレート間地震の津波評価への反映について説明します。
0:22:53	29 ページには、説明の概要を示しています。
0:22:57	まず前回会合における説明ですが、
0:23:00	各種パラメータの網羅的検討による方法により、検討を行っている当社のプレート間地震の津波評価では、
0:23:09	国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえて、滑り量 37m とライズタイム 120 秒の組み合わせを含めて網羅的なパラメータスタディを実施しています。
0:23:20	一方、B 代表パラメータの検討による方法で検討された内閣府の最大クラスモデルの津波評価では、
0:23:29	非常に大きく設定されたパラメータ滑り量 37m とライズタイム 60 秒の組み合わせにより、その他のパラメータの不確かさの影響を代表する方法で不確かさが考慮され少ない検討ケースで、南海トラフの全域を網羅する。
0:23:46	最大クラスの津波として想定されています、ます。
0:23:51	この量評価はいずれも十分な不確かさが考慮されていることを説明して参りました。
0:23:57	続いて、前回会合でのコメントを受け、黄色の箱書きですが、先ほどまでの御説明の中で海溝軸から陸域側では海溝軸からの距離が近いことによる特別な考慮をする必要がないことを確認し、
0:24:13	また、当社の津波評価は不確かさの考慮として、国内外の Mw9 クラスの巨大地震津波の発生事例に基づき、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:22	の方法による検討を行っており、内閣府 2020 及び南海トラフにおける津波堆積物調査の拡充を踏まえると、2020 年までに確認されている痕跡高を再現する津波が最大クラスの津波として想定されるところ、
0:24:39	この痕跡を右から 3 倍程度上回る保守的なものとなっています。
0:24:44	これらのことから、当社のプレート間地震の津波評価は、国内外のMw9 クラスの事例や波源の滑りの不均質性の影響を踏まえても、不確かさの考慮をして、十分保守的なものと考えられますが、
0:24:58	前回会合におけるコメント及び国内外のMw9 クラスの巨大地震津波の発生事例が限られているということを踏まえ、さらなる不確かさとして、敷地の津波評価に影響の大きい滑り量とライズタイムの組み合わせを国内外の
0:25:15	Mw9 クラスの巨大地震津波の発生事例に対して、より慎重に裕度をもって設定することとし、
0:25:23	日代表パラメータの検討による方法により検討された内閣府の最大クラスモデルの津波評価において、ほかのパラメーターの影響対比表するよう、非常に大きく設定されている滑り量 37mとライズタイム 60 秒の組み合わせを
0:25:40	の方法により検討している当社のプレート間地震の津波評価において、さらなる不確かさの考慮として検討することとしました。
0:25:48	また最後に範囲の結果を内閣府の最大クラスモデルと比較して示します。
0:25:54	各内容についてそれぞれのページで説明していきます。
0:25:59	30 ページから 39 ページには、前回会合における説明の主要な内容を再掲しています。
0:26:06	すべてを御説明することは控えますが、例えば 30 ページは、内閣府のない内閣府の南海トラフの巨大地震モデル検討会の検討内容の確認を実施し、
0:26:18	南海トラフの津波評価に影響の大きい滑り量等のパラメータを非常に大きく設定することにより、津波評価に影響の小さい破壊開始点等のその他のパラメータの不確かさの影響を代表する方法で不確かさが考慮され少ないケースで、
0:26:35	検討ケースでないかいトラフの全域を網羅する最大クラスの津波として想定されたこと。
0:26:42	31 ページは、内閣府の各海域の巨大地震モデル検討会の内容確認を行い、2020 年時点までに実施された津波堆積物の調査資料から最大クラスの津波を推定できることを示唆するとされており、
0:26:58	確認されているすべての痕跡高を再現する津波が日本海溝千島海溝の最大クラスの津波として想定されていることなど、内閣府の津波評価と当社の津波評価との関係を整理して説明しました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:14	32 ページから 38 ページまでも同様になってます。
0:27:18	39 ページをお願いします。
0:27:24	うん。
0:27:26	こちらも再掲ですが、前ページまでの整理から、青色で示すAの方法で検討している当社のプレート間地震の津波評価と緑色で示していますBの方法で検討している内閣府の最大クラスの津波評価は、
0:27:41	いずれも 2020 年時点までの痕跡高を 2 から 3 倍程度上回る津波想定となっており、両者のモデルは十分に二つか不確かさの考慮がされていることを確認しました。
0:27:55	続いて 10 ページに前回審査会合でのコメントを踏まえた津波評価への反映方針を示します。
0:28:03	上の箱に記載したコメントを踏まえて、下の箱書きですが、
0:28:08	当社のプレート間地震の津波評価は、国内外のMw9 クラスの巨大地震津波の発生事例や津波波源の滑りの不均質性の影響を踏まえても、不確かさの考慮として十分保守的なものと考えられますが、
0:28:23	前回会合におけるコメント及びページの中央の表で示しますように、国内外の Mw9 クラスの巨大地震津波の発生事例が限られているということ踏まえ、
0:28:35	敷地の津波評価に影響の大きい滑り量とライズタイムの組み合わせを国内外の巨大地震津波の発生 10 に対して、より慎重に裕度をもって設定することとしました。
0:28:48	具体的には、Bの方法により検討された内閣府の最大クラスモデルの津波評価において、ほかのパラメータの影響代表するように、非常に大きく設定されている滑り量 37mとライズタイム 60 秒の組み合わせをへの方法により検討している。
0:29:05	プレート間地震の津波評価においてさらなる不確かさの考慮として検討することとしました。
0:29:12	41 ページは反映方法です。
0:29:15	先ほども御説明したように、前回会合ではへの方法Bの方ほうは、波源設定の考え方が異なるものの、両モデルとも十分な不確かさが考慮されていることを報告しておりましたが、今回コメント回答では、右側の赤枠で示すように、
0:29:32	Bの方法により検討された内閣府の最大クラスモデルで非常に大きく設定されているパラメータをさらなる不確かさの考慮として検討することとしております。
0:29:43	42 ページは、さらなる不確かさを考慮した津波評価の検討方針です。
0:29:49	そんなに不確かさを考慮した津波評価では検討波源モデルのパラメータスタディにさらに国内外の巨大地震津波の発生事例に対して、より慎重に裕度を

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	持って津波評価に影響の大きい大洲大きい滑り量とライズタイムの組み合わせを検討しました。
0:30:07	43 ページは滑り量とライズタイムの組み合わせの分析です。
0:30:12	南海トラフの歴史記録、津波堆積物から推定される最大クラスの津波である青色の痕跡再現モデルに対して、これまでにオレンジ色で示す、国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえて保守的に設定した滑り量とライズタイムの組み合わせによる、
0:30:31	検討波源モデルのパラメータスタディを実施し、検討してきました。
0:30:35	皆様の不確かさを考慮した津波評価では、国内外の巨大地震津波の発生事例に対して、赤で示すように慎重に裕度を持った形で 30 滑り量 37mとライズタイム 60 秒の組み合わせを考慮しました。
0:30:52	44 ページは、さらなる不確かさを考慮したモデルの水位上昇側の津波評価結果です。
0:30:59	基準断層モデル位置のパラメータスタディ結果 20.3mから 22 目、22.5mとなりました。
0:31:08	45 ページには、内閣府の最大クラスモデルとさらなる不確かさを考慮したモデルとの比較を表で示します。
0:31:16	右側のさらなる不確かさを考慮したモデルは、
0:31:20	内閣府の最大クラスモデルに対して、赤字で示すように、滑り量とライズタイムの組み合わせ浅部の破壊形態、
0:31:28	上を滑り域を滑り域の位置、破壊伝播速度、破壊開始点について、さらに不確かさを考慮したモデルとなっていることを確認しました。
0:31:39	46 ページに、両者の津波評価結果の比較を示します。
0:31:44	津波水位は内閣府の最大クラスモデルの津波評価を上回る結果となりました。
0:31:50	47 ページにNo.4 コメント回答のまとめを示します。
0:31:58	説明者かわりまして中部電力カトウが説明いたします。
0:32:01	48 ページからは、プレート間地震の津波評価全体について説明いたします。その中で、No.1 から 3 コメントに対する回答について御説明いたします。
0:32:11	49 ページはコメント回答の概要一覧の再掲になります。
0:32:16	50 ページにはプレート間地震の津波評価の全体像とコメント回答との関係を示しています。
0:32:22	左側に示す津波評価のフローに今回の変更箇所、その右側に今回のコメント回答に伴う変更点をお示ししていますが、No.1 コメント回答に伴う変更として検討波源モデルBの追加No.2 コメント回答に伴う変更として、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:38	日本海溝の特性化手法を用いたモデルの設定の変更。
0:32:42	No.2 コメント回答に伴う変更として、さらなる不確かさの考慮の追加を行いました。
0:32:48	なお、No.2 コメント回答に伴って設定変更した日本海溝の手法を用いた三つのモデルの名称を今回わかりやすく日本海溝特性化手法モデル①から③としております。
0:33:01	次の 58 から 53 ページは前回からの再掲で 51 ページは浜岡の概要 52 ページは敷地周辺の既往津波、
0:33:11	53 ページは、行政機関による津波評価になりまして、54 ページからプレート間地震の津波評価の検討概要を示します。
0:33:19	55 ページをお願いします。
0:33:24	55 ページは目次ですが、1 から 3 章は前回から変更ありませんので説明は割愛し、4 章の検討波源モデルの津波評価から説明いたします。
0:33:34	114 ページをお願いします。
0:33:45	113 ページから、検討波源モデルの設定について説明いたします。
0:33:49	まず 115 ページはNo.1 コメント回答の概要です。
0:33:53	前回活動では、遠州灘沿岸域に着目した検討波源モデルABと南海トラフ広域に着目した検討波源モデルシートで異なる滑り量分布の設定方法を選択した理由を説明すること。
0:34:06	また検討波源モデルCの滑り量分布を踏まえて検討波源モデルABに対して超滑り域の深さを検討することというコメントいただきました。
0:34:16	イトウのようですが、遠州灘沿岸域に着目した検討波源モデルAB段階トラフ広域に着目した検討波源モデルCはそれぞれ着目した領域を踏まえて滑り量分布の特性化手法選択していることを整理しました。
0:34:31	また何かトラフ広域の津波に着目した検討波源モデルCの超滑り域が敷地周辺の津波に着目した検討波源モデルABよりも深い位置に設定されることを踏まえ、敷地に対して影響の大きい検討波源モデルAの超滑り域の深さを検討波源モデルCと同じとしたモデルを
0:34:50	検討波源モデルBとして追加し検討しました。
0:34:54	110 ページはNo.2 コメント回答の概要です。
0:34:58	前回会合では日本海溝の試行を用いた波源モデルでは日本海溝の検討事例のパラメータを用いるのではなく、南海トラフの津波評価に適用するパラメータ設定を検討することというコメントいただきました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:12	回答の概要ですが、日本海溝の手法を用いた波源モデルのパラメータについて、日本海溝の検証事例を参照するのではなく、南海トラフ及び国内外の巨大地震に関する最新知見に基づき設定することとしました。
0:35:27	117 ページ 118 ページは前回の再掲ですが、検討波源モデルの設定の考え方。
0:35:34	119 ページには記載モデルと検討波源モデルの設定の考え方の関係をお示ししています。
0:35:41	こちらは繰り返しになりますが、左側の痕跡再現モデルは、最新の科学的知見を踏まえると、南海トラフの最大クラスの津波のモデルと考えられますが、右側の検討波源モデルの設定にあたっては、東北沖地震における巨大津波の発生要因。
0:35:57	地震規模、浅部の破壊形態を不確かさとして保守的に考慮して設定しています。
0:36:04	120 ページ 121 ページには、検討波源モデルにおける地震規模、浅部の破壊形態の保守的設定の考え方についてお示ししています。
0:36:13	122 ページには、
0:36:15	今回検討波源モデルの設定において、No.1 及びNo.2 コメント回答に伴い検討波源モデルDの追加日本海溝の特性ば手法モデル①から③の設定変更を行いました。
0:36:30	123 ページには、検討波源モデルの設定において適用した特性化手法についてお示ししています。
0:36:37	土木学会 2016 はM9 クラスのプレート間地震の滑り量分布の代表的な特性化手法として、内閣府 2012 とスギノほか 2014 を上げています。
0:36:48	上側の青い枠内に示す内閣府の特性化手法は狭い領域に平均滑り量の 4 倍 3 倍の滑り量を持つ超滑り域を設定することにより、
0:36:58	そういった正対する沿岸域に大きな津波を発生のてる手法であり、
0:37:03	この超滑り域等の位置を移動させて検討することにより、ほかの沿岸域もカバーする手法となっています。
0:37:10	敷地周辺の津波着目した検討波源モデルは、この内閣府の特性化手法に基づき、滑り量と面積割合を設定しました。
0:37:19	一方下側の緑の枠内で示すスギノ化の特性化手法は広い領域に平均滑り量が 3 倍の滑りを持つ超滑り域を設定することにより、
0:37:29	広域の津波高の再現性を考慮した手法であり、南海トラフ広域の津波に着目した検討波源モデルは、このスギノの特性化手法に基づき、滑り量と面積割合を設定しました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:41	124 ページには、特性化手法と特性化された超滑り域の深さとの関係をお示ししています。
0:37:49	妙徳敦賀手法では滑り量と面積割合が異なることに伴い、特性化された調査を滑り域の深さも異なっています。
0:37:57	狭い領域に平均滑り量の 4 倍 3 倍の滑り大事超滑り域を設定する手法である内閣府の特性が手法では、
0:38:05	超滑り域となる可能性がある領域は津波断層域の位置、青破線で示す浅部断層の領域とされます。
0:38:13	一方支出領域に平均滑り量の 3 倍の滑りを持つ超滑り域を設定する手法であるスギノかな特性が手法では、
0:38:21	超滑り域は内閣府よりも深い緑破線で示す、海溝軸から日本海溝の津波断層域の深さの概ね 3 分の 1 の領域に推定されています。
0:38:33	127 ページには、特性化手法と特性化された超滑り域の深さの津波評価への反映についてお示しして、
0:38:41	その組み合わせを保守的に検討しました。
0:38:44	まず表の左側青色の何かつつの特性化手法と右側緑色のスギノほかの特性が仕事では、の滑り量と面積割合の特性が方法が異なることに伴い、Bの特性化された中央滑り域の深さも異なっていることから、
0:39:00	それぞれの検討波源モデルに適用した特性化手法に基づき、それぞれの町を滑り域の深さを設定し、検討波源モデルAB及び検討波源モデルCを設定しました。
0:39:13	その結果、右下の南海トラフ広域の津波に着目した検討波源モデルCの超滑りが左下の敷地周辺のプロ並みに着目した検討波源モデルABよりも深い位置に設定されされることを踏まえ、敷地に対して影響の大きい検討波源モデルAを超滑り域の深さを
0:39:32	検討波源モデルCと同じとしたモデルとして、
0:39:35	保守的に表中のオレンジ色で示す設定を用いた検討波源モデルDを追加しました。
0:39:43	120 ページではこれまでの検討を踏まえ、
0:39:46	各特性化モデルと浅部の破壊形態を整理しました。
0:39:50	縦軸特性化の方法、横軸は浅部の破壊形態を示しています。
0:39:55	検討はよろしい及び日本海溝特性化手法モデル①から③は、
0:40:00	断層破壊がプレート境界面浅部に伝播する場合として設定していますが、その右側の断層破壊がプレート境界面浅部分岐断層に伝播する場合と、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:11	超滑り域の深さを広域モデルと同じとした場合の検討は検討波源モデル及び日本海溝の特性化手法モデルの津波評価結果から、ほかのモデルにより、
0:40:21	よって、このモデルによる検討で代表することとしています。
0:40:26	次の補足 17 ページ以降には、検討波源モデルAからDの設定についてお示しして、
0:40:32	150 ページから 156 ページにかけて、
0:40:36	今回追加しました検討波源モデルBの設定について、ほかのモデルと同様にお示ししています。
0:40:44	157 ページには、これまでの検討波源モデルの設定結果を一覧でお示しています。
0:40:52	158 ページには、検討波源モデルの設定設定結果としての東海地域の滑り量分布を示しています。
0:40:59	これまで設定した検討波源モデルは、敷地への影響が大きい東海地域において複数の滑り分布のパターンを考慮しています。
0:41:08	159 ページからは、日本海溝特性化手法モデル①から③の設定について説明します。
0:41:15	160 ページにNo.2 コメント回答に伴う変更点を示します。
0:41:19	前回会合では、左の滑り量分布の設定フローのように、緑の枠で示す妥当性が検証された特性化手法と青の枠で示す特性化のためのパラメータとはともに日本海溝の検証事例を参照して組み合わせに検討するものと考えてあげモデルを設定していましたが、
0:41:37	コメントを踏まえ、右のフローで示すように緑枠の特性が手法のみ日本海溝の検証事例を参照した特性化のためのパラメータは南海トラフ及び国内外の巨大地震に関する最新知見の知見に基づいて設定することとしました。
0:41:53	その結果、161 ページに示すように日本海溝の特性化手法モデルの断層パラメータは検討波源モデルと同様の設定となっています。
0:42:02	4.2 章以降では、これらのモデルに対して概略及び詳細パラメータスタディを実施します。
0:42:09	162 ページから 177 ページには、各日本海溝の特性化手法モデルの設定方法と設定結果をお示ししています。
0:42:20	約 79 ページからは 4.2 検討波源モデルのパラメータスタディについて説明します。
0:42:28	108 ページにはパラメータSARRY全体の概要についてお示ししています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:33	左側、検討波源モデルAからD右側に日本海溝の特性が手法モデル①から③の流れを示しており、ともに概略パラメータスタディ詳細パラメータスタディの順に検討を行っています。
0:42:47	181 ページは、概略パラメータスタディの検討方針ですが、これまで説明した通り、滑り域が1ヶ所及び2ヶ所のケースについて、滑り域の位置を移動させた検討を行います。
0:43:00	182 ページには、水位上昇側の概略パラメータ整理結果のまとめを示しています。
0:43:06	各評価地点における最大値を赤の数字でお示しており、赤の網掛けとしている検討波源モデルA及びBを基準断層モデル1及び3として選定しました。
0:43:18	また下のちょうど日本海溝特性化手法モデル①から③については、
0:43:22	検討波源モデルAからDの概略パラスタにより選定した基準断層モデル13の結果を下回ることを確認しました。
0:43:31	183 ページは水位下降側の概略パラスタ結果のまとめになります。
0:43:36	各評価地点における最大値を青の数字でお示しており、青の網掛けとしている検討波源モデルA及びBをそれぞれ基準断層モデル2及び4として選定しました。
0:43:48	ここで基準と波源モデルBの水位低下時間は、検討波源モデルAは水位低下時間を下回っていますが、
0:43:55	3号取水塔水位低下時間の差は0.1分と数値がほぼ同じであることから、念のため基準断層モデル4として選定することとしました。
0:44:05	また下の表の日本海溝特性化手法モデル①から③については検討波源モデルAからDの概略パラスタにより選定した基準断層モデルに4の結果を下回ることを確認しました。
0:44:19	183 ページから200 ページには、概略パラメータスタディの全ケースの結果と各検討波源モデル日本海溝の特性化手法モデルの選定ケースの最大水位分布及び水位の時刻歴はけ
0:44:33	201 ページには、左上に敷地前面において影響の大きい検討波源モデルAの概略パラメータスタディ結果、
0:44:41	左下に各検討波源モデルの解約パラメータスタディの結果選定したモデルの最大上昇水位分布の比較を示しています。
0:44:51	200 にするには、各基準断層モデルの津波評価結果をお示しています。
0:44:57	203 ページからは津波断層モデルにおける遷移領域の設定について説明します。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:03	203 ページと 204 ページは前回資料の再掲ですが、203 ページには遷移領域を設定した考え方、
0:45:10	204 ページには、検討波源モデルAと日本海溝の特性化手法モデルの滑り量及び面積の関係の比較を示しています。
0:45:19	205 ページからは、No.3 コメントに対する回答としまして前回会合で遷移領域の有無が水位下降側の津波評価結果に及ぼす影響についてコメントをいただきましたので、今回水位下降側の基準断層モデルも含めて遷移領域の有無に関する影響検討を追加で行いました。
0:45:38	205 ページ上段の図は遷移領域を設定している基準断層モデル 1 から 4 及び遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルの波源ですが、
0:45:48	それぞれ、下段の図のように遷移領域のない波源モデルを設定して数値シミュレーションを実施しました。
0:45:56	106 ページから 208 ページに、各モデルの評価結果をお示ししています。
0:46:01	それぞれ左側が遷移領域ありの結果、
0:46:04	右側が専用機なしの結果となりまして、遷移領域の有無が津波評価結果に与える影響は小さいことを確認しました。
0:46:12	なお基準断層モデルの遷移領域のありなしのコメント回答とともに 208 ページに参考として掲載しております遠州灘沿岸域の引き下げモデルの水位下降側の遷移領域ありなしの結果につきまして、
0:46:26	資料提出後も継続して実施しました社内での資料確認の中で、図表張り間違えていることに気が付きました。
0:46:34	遷移領域のありなしによる違いが小さいことは確認済みですので、次回までに正しい結果を見て規定化をさせていただきたいと思います。申し訳ございませんでした。
0:46:45	109 ページと 210 ページは、概略パラスタの結果の再掲になります。
0:46:50	211 ページから詳細パラメータスタディについて説明いたします。
0:46:55	約 11 ページは検討方針ですが、これまで説明した通り、ライズタイム破壊伝播速度、破壊開始点のパラメータスタディを行います。
0:47:04	210 ページは、基準断層モデル 1 から 4 の詳細パラスタの設定条件になります。
0:47:10	こちらもこれまでの説明から変更はなく、ライズタイムは国内外のN8 からM9 クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの分析結果に基づき、
0:47:20	滑り量に応じた滑りライズタイムとして 120 秒を考慮しました。
0:47:25	210 ページは津波インバージョンにより推定されたM9 クラスの巨大地震の動的パラメータ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:31	214 ページは、各基準断層モデルと国内外のM8 からM9 クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの比較結果。
0:47:40	215 ページは、
0:47:41	広域再現モデルと基準断層モデルと比較をお示ししています。
0:47:46	保守的に国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえて設定した基準断層モデルは自然現象にばらつきがあることを踏まえても大きな不確かさを考慮した制定となっていることを確認しました。
0:47:58	206 ページには、前のページの滑り量ライズタイムの組み合わせの根拠を示しています。
0:48:05	217 ページから 220 ページに基準断層モデル 1 から 4 の詳細パラスタ結果。
0:48:11	約 21 ページから 224 ページには、各基準断層モデルの概略パラスタと詳細パラスタの因子が津波水位に与える影響の分析結果、
0:48:21	225 ページから 228 ページには、その算出公庫根拠を示しています。
0:48:28	229 ページには、敷地前面において影響の大きい基準断層モデル位置のすべての詳細パラスタ結果の最大上昇水位の比較を示しています。
0:48:38	203 ページからは、日本海溝特性化手法モデル①から③の詳細パラスタについて説明します。
0:48:45	230 ページは、詳細パラスタの設定条件です。
0:48:49	ライズタイムについては、日本海溝の特性化手法モデルの滑り量に応じて、60 秒まで考慮することとし、右側の通り、基準断層モデル 12 の分析結果に基づいて、水位上昇側は 60 秒水位下降側は 150 秒としました。
0:49:06	同様に関わり返しても、基準断層モデル 1 の結果に基づき、水位上昇側 2.5、水位下降側 0.7km毎秒としました。
0:49:16	偶然的不確かさの破壊開始については、滑り域等の周辺に力P6 の 6 点を設定し検討しました。
0:49:25	238 ページは、日本海溝の特性化手法モデルと国内外のM8 からM9 クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの比較結果になります。
0:49:35	グレーの差で示す日本海溝の特性化手法モデル①から③についてライズタイムを 60 秒とすることにより、紫の参画のように、オレンジ色の線の国内外のM8 からM9 の地震の発生事例の滑り量とライズタイムの組み合わせと。
0:49:51	同等もしくは上回ることを確認しました。
0:49:55	約 32 ページには、前のページの滑り量ライズタイムの組み合わせの根拠。
0:49:59	233 ページと 234 ページには日本海溝の特性化手法モデル①から③の詳細パラスタ結果をお示ししています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:09	235 ページには、上の表に基準断層モデル、下の表に日本海溝の特性が手法モデルの水位上昇側の詳細パラスタ結果を示しています。
0:50:19	表中でオレンジの網掛けとしている数値が泊地点における全詳細パラスタ結果の最大値になります。
0:50:26	ここで、日本海溝の特性化手法モデル①から③の詳細パラスタ結果は基準断層モデル 1 及び 3 の詳細パラスタ結果を下回るため、
0:50:36	検討波源モデルの津波評価で代表できることを確認しました。
0:50:41	236 ページには水位下降側の詳細パラスタ結果を示しておりまして、表中でオレンジの網掛けとしている数値が各地における全詳細パラスタ結果の最大値になります。
0:50:52	同様に日本海溝の特性化手法モデル①から③の詳細パラスタ結果は基準断層モデルに 4 の詳細パラスタ結果を下回るため、水位下降側においても、検討波源モデルの津波評価で代表できることを確認しました。
0:51:08	237 ページから 240 ページには、基準断層モデルと日本海溝特性化手法モデルの水位上昇側及び水位下降側の最大水位分布と時刻歴分けを示しています。
0:51:21	241 ページはパラメータスタディ結果のまとめになります。
0:51:26	検討はモデルのパラメータスタディの結果、水位上昇側及び水位下降側の各評価地点において最も敷地への影響が大きいケースを表の太枠でお示しています。
0:51:37	次の 4.3 章では検討波源モデルのパラメータスタディの結果、最も敷地への影響が大きいケースを対象として、さらなる不確かさを考慮した津波評価を実施しました。
0:51:49	243 ページをお願いします。
0:51:54	243 ページから 4.3 章として、さらなる不確かさの考慮について説明します。
0:52:00	244 ページにはNo.4 コメント回答で説明しましたが、検討方針
0:52:05	約 45 ページには、さらなる不確かさを考慮した場合の滑り量とライズタイムの組み合わせについてお示しています。
0:52:12	246 ページには、基準断層モデル位置のパラメータスタディモデルに対してさらなる不確かさを考慮したモデルのパラメータ設定を示しています。
0:52:22	選定したんですね、左の表の赤枠で示した右の表に具体的なパラメータを示しています。
0:52:29	ここでライズタイムについては※2 の通り短いほど最大水位上昇量が大きくなる傾向があることから、さらなる不確かさの考慮として 60 秒と設定しました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:40	なおぐべき不確実性の破壊開始点は、滑り域等の周囲にビーチからP6の6点を設定し検討しました。
0:52:48	147ページと248ページには、それぞれ基準断層モデル2及び基準断層モデルさんのパラメーターSARRYモデルに対して、同様にさらなる不確かさを考慮したモデルのパラメータ設定についてお示ししています。
0:53:02	249ページには、各基準断層モデルの詳細パラスタモデルに対してさらなる不確かさを考慮した津波評価結果をお示ししています。
0:53:12	あとアプリ困っているケースが各基準断層モデルのうち敷地への影響が最大となるケースになります。
0:53:19	250ページには、さらなる不確かさを考慮したモデルの最大水位分布と水位の時刻できますよ。
0:53:26	251ページと252ページには、内閣府の最大クラスモデルのケース1及びケース8と比較を示して、
0:53:34	さらなる不確かさを考慮した津波評価結果は、水位上昇側下降側ともに内閣府の最大クラスモデルの結果を上回ることを確認しました。
0:53:45	また253ページには、敷地前面における最大上昇水位の比較として、
0:53:50	オレンジの線で基準断層モデル位置の詳細パラスタ結果。
0:53:54	それに対して赤でさらなる不確かさを考慮した結果、
0:53:58	黒破線で内閣府の最大クラスモデルケース1の結果をお示ししています。
0:54:03	245ページからまとめになります。255ページをお願いします。
0:54:11	約55ページは、水位上昇側のプレート間地震の津波評価結果のまとめです。
0:54:16	上の表を検討波源モデルのパラスタ結果のうち、黒枠で囲ったケースについて、さらなる不確かさを考慮した津波評価結果を下の表にお示ししております、
0:54:26	各地点の最大値をオレンジの網かけでお示しています。
0:54:30	ここで、さらなる不確かさを考慮した検討波源モデルAの敷地前面の評価結果に12.5mについては、下の注釈※1の通り、
0:54:40	貿易の高さを無限大とした場合の解析結果になります。
0:54:44	また検討波源モデルD-12号取水装置での評価結果について、下の注釈※2の通り、海側の数値は12号取水槽周りに高さ無限大の壁を設定した場合の解析結果で、下側の括弧内の数値は、取水炉の設備対策を実施した場合における解析結果になります。
0:55:02	なお対策については、基準津波の確定後に実施して参ります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:07	256 ページには水位下降側のプレート間地震の津波評価結果を示しております、オレンジ色の網掛けで示す通り、34 号取水塔時点で推定か時間 13.2 分となりました。
0:55:20	257 ページは再掲ですがプレート間地震の津波評価の全体概要 258 ページは、最終的なプレート間地震の津波評価を示しています。
0:55:30	最後に 59 ページですが、プレート管理指針の津波評価のまとめになりました、敷地前面の最大上昇水位はT+22.5m、
0:55:40	34 号取水塔の水位低下時間は 13.2 分となりました。
0:55:45	それとか津波の説明は以上となります。
0:55:52	中間部のモリモトです。先ほどサグチさんから一番初めにいただきました。泥質等へと紙ベースでの違いについて御説明させていただきたいと思うんですけどよろしいでしょうか。
0:56:05	規制庁ニシキですのでお願いします。
0:56:09	はい。よろしくお願いいたしますまず結論から申し上げまして、電子と紙ベースと違っているところについては、電子データの方が制ということで確認いたしました。まず多分普通お手元に紙ベースがあると思いますので、と補足説明資料の紙ベースのほうの目次
0:56:29	を開いていただければと思います。
0:56:35	2 ページ目から目次がございまして、
0:56:40	先ほどサグチさんからご指摘ありました部分については、イトウ後も一緒の内閣府の最大クラスモデルの津波の波源モデルの部分と、英語に小江内閣府の最大クラスモデルの水位下降側の影響検討の部分に当たるかと思います。
0:56:59	後のニシノなのです。
0:57:01	ええ、水位下降側の影響検討については以前に審査会でいただいたコメントを踏まえて作成した資料をそのまま入れておまして、イトウ 176 ページということで、紙ベースのほうを見ていただきますと、
0:57:23	コメント回答の内容でしたので、177 ページからまず最大クラスモデルの説明がありまして、どういう評価が得られているという事 178 で 279 ページで近隣の
0:57:37	県の波源モデル想定、
0:57:41	等々、内閣府がやっていること時にがやっていくことの説明があつて、電波の話があつて水位上昇側の話が 183 ページにあると
0:57:52	ええ、水位下降側の話が 184 ページにあるということで、
0:57:57	以前のコメント回答では、このような構成で説明させていただいたんですけれども、今回補足説明資料に入れるにあたってちょっとふさわしくないなと上昇側

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	のコメントも入っておりますので、というか、情報ばの話も入っておりますので、きちんと再構成したほうがいいかなということを思いまして、
0:58:14	後の一緒のほうに内閣府の最大クラスの津波の波源モデルという章がございますので、そちらとページ構成を入れ替えたものが電子のほうになります。
0:58:27	なので、
0:58:29	内容自体はページの増減等の内容自体は電子投函ベースと変わっていないんですけれども、さっき、例えば先ほど紙ベースのほうで御指摘があった、170ページ
0:58:45	下側の、
0:58:47	黄色い四角が練習のほうではないということとかもコメントたい回答としてはこの四角がこういう方針でありますということが必要だったので記載をしていたんですけれども、現在の補足としては不要ということで、削除したりというようなコメントたい。
0:59:05	今年はなく、補足説明資料として5-1ところに再構成させていただいたというのが、電子のほうでございますので、こちらが印刷物のほうにへときちんと反映できていなかったということで、5の1相とこの2章については、
0:59:21	電子のほうを正として、今回ご確認いただきたいなというふうに思っております。また紙ベースのほうについては、
0:59:29	訂正対象と必要な対応をさせていただきたいと思います。以上です。申し訳ないです。
0:59:37	はい。規制庁サグチですかあろう事実確認はできましたので、なのでベンチが正しくてちょっと紙が間違ってたということで多分これ差し替えでまあいいかなとは思いますが、また別途ですね、ご対応いただければと思います。
0:59:58	規制庁ニシキです。
1:00:01	今し方御説明いただいたところについて、規制庁側から確認。
1:00:06	これ、
1:00:07	事故がありましたらお願いいたします。
1:00:13	はい。規制庁サグチですけど、ので引き続きじゃ御説明事項について、
1:00:19	確認をさせていただきたいと思うんですけど、まずちょっと大きなところ確認をさせていただきたいと思うんですけど、一番最小ですね、今回の
1:00:34	11ページとか、コメント回答の関係ということで
1:00:39	全部これやりましたよという形で示されていて、
1:00:45	一番気になっているのは、コメント。
1:00:49	No.1に対応した検討波源モデルが一つ追加をしましたと。
1:00:55	いうところとあとコメントNo.

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:59	2 で若干こう、
1:01:03	前回会合とかのやりとりも踏まえた上で、
1:01:08	物性値等を御説明構成ですけどね、具体的なっていうのをちゃんと南海トラフ用にしました。
1:01:16	阿保多分これが一番大きいのかなっていうのナンバー4 のコメントとして、さらなる不確かさをどうしますかということで 37 滑りを 37 名とライズタイム 60 秒。
1:01:30	を組み合わせを実施をしましたという大きく分けると、
1:01:36	大きなこれぐらいかなと思うんですけど。
1:01:43	また、ざっくりちょっと聞きますけど。
1:01:48	結局のところ 2 回とか 3 回ぐらい前に
1:01:54	さらなる
1:01:55	不確かさとして内閣府の
1:01:59	ライズタイム 60 秒取り入れますといった、
1:02:04	また、
1:02:05	ことが当然あったわけなんですけど、それと、
1:02:10	今回、イトウとどこがどのように違うかっていうのを端的にちょっと説明していただきますが、
1:02:21	はい、中部電力の森です。補足説明資料の
1:02:27	154 ページを御確認いただきたいんですけども、
1:02:45	こちら、
1:02:47	第 1、
1:02:49	思います。
1:02:53	その以前の審査会合で、参考値としまして 22.5m の津波っていうのを説明させていただいたときの資料でございます。
1:03:03	で、
1:03:04	こちらで説明させていただきたいんですけども、今回評価上の位置付け自体は異なっていますけれども、この波源モデル自体は前回示したものを当社の評価として取り入れたということでございます。で、この 254 ページのこの際は、
1:03:23	左側に示しております。の方法で実施した当社のプレート間地震、津波評価とは別に、B の方法でやられているというふうに当社が分析している最大内閣府の最大クラスモデル、これに対して、さらにそのものに対してさらに不確かさを振った場合にどうなるかと。
1:03:41	ということで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:43	一番右側の参考としまして、最大クラスモデルに対して破壊開始点等のパラメータスタディを実施したモデルということで、影響検討をその次ページ以降で行ったというのが参考値として示させていただいたというものでございます。
1:04:00	で、今回はこのように行政機関のモデルをそのものをいじるというわけではなくて、この 254 ページの緑で示している 37m60 秒っていうものを左側の当社のプレート間地震の津波評価の検討の中に、そのパラメータ自体を知見として、
1:04:19	取り込んだというところで評価の方法自体は少し異なっております。
1:04:29	だから結果的には 37 と 60 っていうのは、
1:04:33	左側に持ってきておりますので、内閣府と同等のパラメータを来当社のプレート間地震、津波評価として考慮しているということと、それ以外のパラメータスタディも内閣以上に実施しているということを、先ほど本体資料のほうで御説明させていただいたと。
1:04:52	いう説明になります。
1:04:57	やはりサグチです。いずれにしても、御社の評価の中に内閣府に時 2000A12 で言われているこのライズタイム 60 秒を取り入れたということは、私も理解はしているんですけども、つまりその
1:05:14	内閣府モデルを内閣府モデルを使って
1:05:20	パラスタをするのではなくて、音声がまず設定した波源モデル。
1:05:25	2 に対して、その内閣府の知見を取り入れたと。
1:05:30	それが多分今森さんがおっしゃってた話だと思うんですけど。
1:05:34	で、
1:05:35	結局だからそこなんですよ。それって、もう二、三回前ていましてもっと前かもしれないですかね最初歳出再最初から数えて二、三回ぐらいの会合のときに御社はさらなる不確かさ、
1:05:48	っていう形でライズタイム 60 秒はすでに取り入れられてたわけなんですよね。ただそのときには、破壊開始点偶然的な不確かさの破壊開始点が振ってなかったんで、我々からや破壊開始点は偶然的なんだからこれは振るべきでしょう。
1:06:05	て、
1:06:06	言って、
1:06:08	そのあとああだこうだといろいろあって今に至っていて、
1:06:13	結局は、
1:06:15	さらなる不確かさということで同じような形で取り入れますということになったんですけど、結局この、
1:06:23	数回の会合は結局何だったのかっていうと、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:28	少なくともお互いによすねじゃあ内閣府のモデルだったり、いろんなところ分析をして当然支社にも分析をしていただいて、当然いろいろお互いに理解が深まった上で、でもやっぱり結局、
1:06:45	原子力の安全性を見るならこうだよねってということで、
1:06:51	元に戻ったという言い方は良くないかもしれないんですけど、最大限保守性を考えて、今の形になった。
1:07:01	という
1:07:02	今、私は理解をしたんですけど。
1:07:06	そういう理解でよろしいですね、まず、
1:07:09	中部電力アマンでございます。ありがとうございます。サグチさんの御理解でいいんですけどちょっと振り返りをさせていただきますと、2 回前のときに、
1:07:22	結局は、我々としては内閣府モデルっていうのは、当時、最新の知見を
1:07:28	踏まえて作られているライズタイム 60 秒というところにいろんな不確かさが織り込まれたモデルでこれがいわゆる最大の最大ですよという御説明をさせていただきました。これが今、御説明させていただいたBの方法ですよっていうことを言ってきて、
1:07:44	中部電力としましては、あくまでM8m級の最新知見をみずから拾ってきてそれをパラスタした結果として、
1:07:55	積み上げてきましたということで、結果的に 0.3 メーターと 21.1 っていう、ほぼ同等のものになってるんですけど、やっぱり内閣府モデルだって、それは偶発的不確かさは売らなきゃいけないですよねっていうご指摘を
1:08:11	受けている中で、我々としてその最大の最大っていうところについて前各部の委員の 1 人だとかですの滑り量とライズタイムの関係なんていうのも御説明してきたんですけどどうしてもエビデンスが弱いでしょっていう御指摘もありまして、
1:08:27	内閣府の議事録の公開或いは日本海溝の最大クラスでやっぱり過去五、六千年を見た中の最大っていうのがいわゆる最大クラスでしょうといった知見が出てくるとともに、滑り量とライズタイムの関係も
1:08:44	弊社としまして、新たな知見として査読つき論文で出したということで、この規制庁さんと我々の議論の中で内閣府のモデルっていうのは、やっぱりしっかりと最大を見てるんですねということは、この 2 年間で
1:09:01	共有認識できたのではないかなというふうに考えておりますので一方で、前回、ナイトウさんからご指摘あったように、そうは言ったって、もともと滑り量ライズタイムの関係無給油で見てるけど所詮二つしかないんだから、さらなる

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:16	不確かさっていうところって考えなきゃいけないでしょうということを我々もじっくり考慮いたしまして今回そこをしっかりと自分たちのモデルに取り込んだということで、この2年の議論の中でやっぱり内閣府モデルってこの、
1:09:31	日本を代表しているようなモデルの過ごさでそれをしっかりと自分たちのモデルにとらえてさらに
1:09:40	安全裕度をすべきの位置もちゃんと浜岡に一番効く1にしていますしする側の中の一応すべきとか入れて内数以上のものまで仕上げるということができたので、意味のある2年であったと、自分たちとしても認識してございます。
1:10:01	はい、サグチですね、アマノありがとうございました。なのでその辺りはちょっと共有お互いに認識として共有できたかなと思いますけれども、すいませんコメントみたいになってしまって、ちょっと引き続き確認をさせていただきたいんですけど。
1:10:16	次の12ページですよね、これが全体概要で検討波源モデルBというのが今回追加しました。
1:10:27	というところで、
1:10:31	グレーの矢印っていうんですかね、それに沿っていけば、多分これ、例えば検討もはげえっと検討波源モデルAから何か幾つか発生をしています。
1:10:45	検討波源モデルDから発生をしていますという、右の流れて最終的には、
1:10:50	検討波源モデルAというものと検討を上げるんで、波源モデルDというものが最終的に基準断層、津波となってそれが、
1:11:01	それぞれ上昇側下降側もうチャンピオンになるという流れのつかないと思うんですけど。
1:11:08	一方0。
1:11:11	これやっぱりその、じゃあ、検討波源モデルAからB、
1:11:16	これの妥当性っていう
1:11:19	何で示すものっていうので。当然前回からのこの日本海溝の特性化手法モデルということで今回ちょっと名前を変えられたっていうのはあるんですけど、この三つのモデルを使って、
1:11:35	じゃあ、上の検討波源モデル。
1:11:39	まあ妥当かどうかということを検討しましょうと。
1:11:42	というのが前回からの流れで今回はこの三つのモデルの特に物性値ですよ、物性値を南海トラフにしたと。
1:11:54	というのがあって、それを今日実は御説明でそこまで詳しくされてなくて、なんか結構さらっと御説明されちゃったんですけど。
1:12:10	あ、ごめんなさい。その前に、じゃあこの件、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:14	当波源モデルAからDがあるんですけどちょっと私言ってんですね。
1:12:19	見ていてわからなかったのが実は検討波源設けてるCっていうのも、
1:12:26	ちょっと変えてないですか。ちょっとそこを確認させてください。
1:12:38	中部電力の森です。波源モデル自体は変わってございません。
1:12:46	はい、サグチです。すいません。だからこれ記載だけを適正化されたのか変えられたのかちょっとわからないんですけど。
1:12:56	144 ページですよ。
1:12:59	検討波源モデルCの制定ということで、
1:13:04	これ前回の会合右肩に一部修正と低で私は何が修正跨って当然見るんですけど、まずはこれライズタイム 60 秒だったのが 150 秒になりましたよね。
1:13:20	さらに行くと。
1:13:22	100、
1:13:25	47 ページの
1:13:31	147 ページの一番左下のほう各パラメーターパラメーター一覧という中の
1:13:37	平均応力降下量、
1:13:40	これって変わってません。
1:13:42	設定方法は少なくとも分以前はこれ多分、土木学会っていう書かれてましたし、それから前回の会合でスギノさんとの質疑のやりとりの中でモデルCっていうのは、土木学会を踏襲した。
1:13:58	モデルですというのがあったんですけど、このモデル敷いて、例えば表題のところもそうなんですけど、前回の会合では括弧して土木学会の手法によるって書かれたのが今回なくなって、
1:14:11	これ土木学会の手法からまず帰られたのかどうなのか、モデルが何か関わってる関わって何か別としてですね、ちょっとそこを教えてください。
1:14:24	はい、中部電力の森です。滑り量分布すいません滑り量分布自体は変わってございませんで、ライズタイムについては、日本海溝モデルのほうも含めて、当社としてまずこの検討波源モデルの段階では 100 ライズタイムの整理今までさせていただきます。
1:14:43	150 から 300 秒ということで、
1:14:47	知見の範囲としてはそこにあるということで 100。
1:14:50	77 ページに示させていただいてる断層パラメーターの一覧検討波源モデルの断層パラメーターの一覧のところではすべてのM9 クラスのモデルのライズタイムとして 150 秒というのを設定してございます。
1:15:05	ここから概略パラメータスタディと詳細パラメータスタディでライズタイムを打っていくというような

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:15	通りロジックで今回日本海溝の特性が消防でも含めて実施しております。
1:15:22	で、
1:15:25	今ご指摘ありました。例えば
1:15:34	45 ページあたり。
1:15:37	被災の方針の部分だと思いますけれども、
1:15:42	104 ということでございます。
1:15:50	時 55 ページですか、すみません、5056 ページ。
1:15:59	ごめんなさい。
1:16:00	すみません、100、545 ページですね、すみません、145 ページの
1:16:05	検討波源モデルの設定方法
1:16:09	の部分ですけれども、
1:16:17	前回日本海溝モデルのところの議論の部分で日本海溝の検証事業そのままつかうということの妥当性というのをかなり議論させていただきまして、自分たちのモデルとして、南海トラフのモデルとしてきちんと自分たちで根拠をもって、
1:16:34	設定する必要があるということを
1:16:38	サグチさんナイトウさんからも
1:16:41	御指摘いただきましたので、前Bとあわせてですね欲しいについても、土木学会に書いてあるんだからということではなくて、土木学会も見て内閣府も見て当然
1:16:53	自分たちの知見として、いろいろ調べた上で、自分たちとして設定する必要があるというふうに考えまして、土木学会に基づくような記載ではなくて、調査したハシの知見を調査した上で、まあ保守的に設定していくというような記載に変更しております。
1:17:11	で、剛性率等々の記載についても検討アマノABと同じ
1:17:18	南海トラフ及び国内外の知見を調べておりますので、こちらに基づいて設定したということに記載を変更しております。
1:17:30	はい。規制庁サグチですけども、ごめんなさいちょっと
1:17:35	私も話がちょっと前後してしまいましたので、
1:17:39	①から③をちょっと後においても、まずこの検討波源モデルCというものについて、何かなのでもこれも前回までは御社がこれを東北学会の
1:17:52	に従って、この分を超えるCというのを作りましたっていうご説明だったんですけども今回はそういうのも踏まえた上で、これも

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:04	言ってしまうと、もう御社独自にこれも作りました。なのでとかbと同じような、その設定の根拠としては同じにすべきだろうということで記載を統一させたというか、そう、そういうふう理解してよろしいですか。
1:18:24	はい、サグチさんのおっしゃる通りです。今回前段でいいという。
1:18:30	122 ページに検討波源モデルの設定ということで、これは前からあったような一覧がありますけれども、その次のページから
1:18:44	検討波源モデルの設定において適用した特性化手法としてどういうふう設定したかというページを新たに追加しております。
1:18:53	大きくは
1:18:56	ニシキ法あるというふう考えておまして、
1:19:00	表と図中でウェイ側に示すような内閣府のような特性化手法のモデルを下側に示すようなスギノさんの特性化の方法、これが土木学会に引用されて検討されているものになります。
1:19:16	で、どちらも目指すところが少し違うというふう考えておまして、正対する沿岸域に大きな津波を発生させるような何かこのような特性化手法は、敷地周辺の津波に着目したビーマへ適用すると。
1:19:31	下側の広域を再現するような特性化手法については、南海トラフ広域の津波に着目した検討波源モデルでしに適用するというので、それぞれ適用化手法を選んだ上で、そのパラメータについても、当社として設定していったと。
1:19:49	いうところを説明として記載させていただいています。
1:19:55	はい、サグチです。ちょっともう少し、
1:19:59	確認させていただきたいんですけど、当然、125 ページにその特性化手法とかあってというのがあって、それぞれ
1:20:09	検討波源モデルAB、
1:20:12	については内閣府 2012。
1:20:15	の手法で指針についてはスギノ法 2014 ベAとDについてはこの内閣府 2012 棟をするスギノほか 2014 の両方を踏まえて設定をされているという、こういう
1:20:30	一覧の
1:20:32	ものがあるんですけど。
1:20:33	そうしたときに、そうしたときにですよ。
1:20:37	これさっきの 147 ページの
1:20:41	左下の効能表っていうのはなぜ内閣府 2012 とかが入ってくるのかなという、ちょっと素朴な疑問なんですけど。
1:20:50	ここの関係がどうなってるのかちょっと教えてもらっていいですか。
1:21:05	中部電力の森です。120 もう一度 123 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:10	ご確認いただければと思います。そこで特性化手法と言っているところは、
1:21:18	基本的に上の箱書きで記載しているようにその滑り量と面積割合をどういうふうに特性化するのかというところが大きく違うのかなというふうに思っています。上側の内閣府の方法と下側のスギノの方法とで、
1:21:35	超滑り域として設定する滑り量が
1:21:40	平均滑りの4倍までであるモデルなのか、3倍のモデルなのかで、そのときの面積割合がスタンバイだけの広いのか4倍だけ小さいのかというような、その特性化の手法が方法が違うというふうにとらえています。
1:21:56	で、滑り量設定なんかのパラメーターについては、南海トラフであれば南海トラフの成立を用いるべきですし、日本海溝であれば日本海溝の構成率を用いるべきですということを前回の審査会合でも御指摘いただきましたので、
1:22:11	特性化手法のためのパラメータについては、当社として設定した値を
1:22:19	検討した値を用いております、滑り量の設定方法については、M9クラスの手法がありますので、こちらを採用しているというところですか。誤開等になって
1:22:34	はいそうです。わかりました。なのでこう滑りを分布については二つの手法を使い分けてやっているというそういう今私もちょっと理解しましたので、
1:22:44	一方でスケーリング則はちょっと別ですよと。
1:22:48	そういう理解でいいんですね。
1:22:53	はい、ご理解の通りです。
1:23:01	はい、サグチです。ちょっと引き続き、
1:23:04	さっきちょっと前後しましたと申しあげましたけど、
1:23:09	今度妥当性確認モデル。
1:23:13	という御社が前回から出してきたモデルについてまたちょっと確認をさせていただきたいんですけど。
1:23:21	これちょっと冒頭にも少しあったかもしれませんが。
1:23:25	我々が当然ごめんコメントしたっていうのは、南海トラフの、特に波源域ですよ
1:23:34	日本海孔のM9クラスの津波評価で妥当性が確認をされている手法を使ってそれを当然南海トラフの津波評価に当てはめるといえるのか、やる場合はどうなるのって考えると当然
1:23:51	波源域は違うんで、
1:23:53	もちろん波源域は変えるんですけど、じゃあその波源域に関わるものっていうのは当然、日本海溝のその値じゃなくて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:04	南海トラフの値を使うべきだというのが前回のコメントの趣旨で具体的に言うと、構成率と面積比ですね、この二つについてはやっぱり南海トラフの波源域のものを使うべきでしょうっていうコメントだったんですけど。
1:24:20	今回ですね。
1:24:22	それプラスアルファで帰られてますよね。いろいろと
1:24:26	で一番大きいのは当然ライズタイム
1:24:30	ですね、150 秒にしていると。
1:24:33	で、日本海溝のところの手法で
1:24:36	150 秒じゃなくて 60 秒ですよ当然で、これを
1:24:41	なぜ、その検討波源モデルと合わせた形でやっているのか。
1:24:47	いってしまうと、このライズタイム 60 秒も含めて、
1:24:51	日本海溝のだと。
1:24:54	成果示されている手法であって、これを変えちゃうとですね。
1:24:59	結局このじゃモデル①②③というのもある意味これ御社のオリジナルモデルになっちゃって。
1:25:07	そうすると、
1:25:09	この①から③の妥当性もさらにですねこれ確認しなきゃいけないと。
1:25:14	ということになってくるんですよ。
1:25:17	そうすると結局、前回の会合でちょっとアマノさん、ちょっと何をやってるのかよくわからないという発言もあったんですけど、今の状態だと何を本当にやっているのかわからなくて、
1:25:31	だから 4+3 七つのモデルについてももう 1 回これ、
1:25:37	妥当性を我々として確認させていただく必要があって、
1:25:43	実は
1:25:45	ライズタイム 60 秒で
1:25:47	最後の最後ですけど。
1:25:50	やってるんですよ実際
1:25:52	ただし、これを今のこの段階でやってしまうとおそらく検討波源モデルが変わるのかどうか知らないんですけど。
1:26:02	多分声超えるんでしょうね、検討波源モデルへっていうものをよりさらに大きくなってしまふ。
1:26:09	あのさ、最初のパラスタをやる前に比べてしまうと、でも最終的に比べれば、実は①②③より今の
1:26:19	イとかCとかDとかが大きくなっているというのを確認できるんですけど。
1:26:25	ちょっとこの今の流れだとやっぱり

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:31	この①②③というモデルについても、さらに
1:26:36	何をもってだったと、これが妥当と示すのかって言うのがあって、
1:26:42	ちょっと、
1:26:44	ここはそんな流れも含めてよくわからないんですけど。
1:26:50	さっきちょっとモデルCという話をしましたけど、
1:26:54	今度モデルの①ですね、①も、
1:26:58	これライズタイムじゃなくてだけじゃなくて、これ、応力降下量の
1:27:05	ところも、164 ページとかですね。
1:27:08	これ変えてません。
1:27:10	ちょっとそこもよくわからなくて、当然 164 ページの左下の小江以前はこれスケ ーリング則の対象とする平均応力降下量っていうのはスギノほか 2013 と書か れていたんですけど、今回は内閣府 2012 というものだねと。
1:27:28	2013 となっていて、
1:27:29	設定値も前は 3.1MPaがまずかったのが今回 3.0MPaと。
1:27:36	いう形で変わってるんですけど。
1:27:41	妥当性確認のためのモデル特性化手法モデル①から③の位置付け等、
1:27:48	なぜこういう今評価を行ったのかというのをちょっと
1:27:54	やっぱり我々としては整理をしていただいていたかかないと、ここはさらに①か ら③も妥当性を確認をしなきゃいけなくなるので、ちょっとその考え方含めて なんな施工したのかちょっと教えてもらっていいですか。
1:28:10	はい、中部電力の森です。ご指摘を踏まえて、南海トラフ及び国内迷わ検討波 源モデルのパラメーター、
1:28:20	その根拠と合わせることが必要だというふうに我々理解してしまいましたの で、この検討波源モデルの段階で横並びできるようにちょっと今回は並べてし まった。
1:28:32	だということですので、サグチさんの今のご確認を踏まえて少しちょっと構成 とかやっていることは
1:28:44	検討でき、最終的に津浪検討波源モデルよりも影響が小さいということは示せ るのかなというふうに思っはいるものの、ちょっとどういうふうに構成を変え たらいいのかということは考える必要があるかなというふうには思いました。
1:28:59	ちょっと今その 161 ページなんかで、
1:29:04	11 ページですかね。
1:29:10	例えばその 177 ページで検討波源モデルの断層パラメーター一覧みたいな形で ちょっと

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:17	横並びにしてしまっているところとかは少し直させていただいたほうがいいのかなと思ってますんで。
1:29:26	最終的にはサグチさんがおっしゃられたように 60 秒まで不確かさを振った上で、影響が小さいことを確認してはおりますので、検討自体、構成と説明ロジックについては再考させていただきます。
1:29:46	日本パイプの特性課長モデルのパラメータをじゃあどうするのかという部分についても、今回 160 ページのところ、
1:29:55	指導整理はさせていただきました。で、前はですね、今回この滑り量分布の設定というところで、前回その左側ですね。
1:30:09	極力、今のような検討波源モデルと日本海溝のモデルとで、何でパラメータが違うのかというところは、我々としても、
1:30:21	同じ、違う数字があれば、どっちが正しいのかというような議論に当然なりますし、日本海溝のモデルから変えたら変えたり、どうなんで変えるのかというような議論になるかなということもあって、極力その日本海溝のモデルのパラメータ変えないほうがいいだろうと。
1:30:40	ということで、左側の青色で書いてあるような波源域の形だとか、
1:30:46	いうところについては、当然南海トラフの評価の学ばイソダ婦、
1:30:51	評価するしかないところなんですけれどもそれ以外のところについてはそのパラメーター設定値含めて、
1:31:01	プレート境界の形状自体は設定値を使うんですけれども、スケーリングの対象とする。まだ総面積の算出にあたっての比率なんかは手法として合わせたほうがいいだろうかということを考えて設定しておりました。で、
1:31:18	ちょっとそうじゃないだろうというような御指摘を審査会合でいただいたこともあって、どうしたらいいかというのを考えまして、先ほど説明したような奥瀬緑で今困っているような滑り量と面積の割合の設定方法
1:31:34	何%で 4 倍強を設定するとか、何%で 3 倍ケースっていうのかと。
1:31:40	いうところが
1:31:43	日本海溝の手法は、特徴的ですので、そこが反映されるようにとそれ以外のところについては、自分たちとして根拠を持って設定したほうがいいだろうということで設定し直したのが今回の右側になっています。
1:32:00	で、赤字で書いておりますそのスケーリング則の対象とする断層面積で応力降下量も剛性率も同じくスケーリングパラメーターですので、こちらも根拠をもって設定したほうがいいかということで設定を変えさせていただきます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:18	こちら滑り量分布の設定なのでライズタイム記載していませんけれどもその他 ます滑り分布設定以外のパラメーターも検討波源モデルとしては分けたほうが いいだろうということで、合わさせていただいたというところです。
1:32:31	補足説明資料のほうでいう応力降下量等について説明させていただきたいん ですけれども、
1:32:40	322 ページをお願いいたします。
1:32:49	。
1:33:02	こちらで検討波源モデルの応力降下量をどういうふうに設定した根拠を持った のかということに記載しております。
1:33:11	左側に示しています。内閣府が津浪観測データから検討した平均応力からの 分析としては、平均が 1.2 で標準偏差加えて 2.2 という数字で右側のMurota ni2013 の世界の巨大地震の
1:33:29	平均としては 1.57 という数字とプラス盤 $\sigma$ で 3 名がということで、当然そのプ ラスさは $\sigma$ ですので、多少は見えるものもあるということは理解しておりますの で、ただプラス湾シグマをほかのパラメーターでも重ねていっていますので、結 果的には保守的になっているというのが今の
1:33:48	津浪評価かなというふうに思ってます。
1:33:50	次ページに剛性率の説明もあるので、併せて説明させていただきたいんです けれども、
1:33:59	前回、
1:34:02	日本海溝のモデルとして、 $5 \times 10^{-10}$ 条にというふうに設定しておりましたけ れども、
1:34:08	こちらも日本海、
1:34:11	だけでなく南海トラフとしても、設定しても、間違いではない数字だというふ うには理解した上で、4.1 という保守的な数字を設定しているというふうに我々 としては考えております。
1:34:25	まず左上のほうに土木学会 2016 による震源付近の剛性率ということで 5.0 と いう数字が示されているということと、右側のほうで
1:34:37	四角のデータ情報であるクラスと 1.0 に基づく内閣府周辺の剛性率としても、 20 から 40km の平均として約 4.9 ということで、
1:34:50	5.0 近い今数字を見ていると。一方で内閣府 2012 で 4.1 という数字もありま したので、保守的に A4.1 という数字をさ設定していったと、これも踏まえて設定 していたというところで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:04	この辺りのパラメータの設定の結果としてのスケーリング則から平均滑り量が出てくるというところで、この組み合わせをちょっとどういうふうを選んでいくかというところが議論かなというふうには思っています。
1:35:19	スケーリング則の式上では、応力降下量と構成リストというのは比例関係にあるということになっていますので、
1:35:27	剛性率が低いというふうに考えたときにオリコ過量が少し小さくても、ということは整合性はあるのかなというふうに思っているものの、どのような方に根拠をもって設定するかということを考えてときに、検討波源ものと同じ様に当社としてはどこまで見るかというようなジャッジを
1:35:44	したほうがいいのかというふうにはもう今回はこのような設定をさせていただきました。
1:35:50	で、前はそうではなくて、日本海溝の応力降下量、今回、日本海溝のところ日本海溝の
1:35:58	特性化手法の検証事例で用いられている応力降下量と日本カトウの検証事例で用いられている剛性率、それぞれが南海トラフで適用してもおかしくはないということは確認した上で、その手法層自体が減少事例自体が用いられている。
1:36:14	オリコからどこ成立のセットを採用してきた。
1:36:19	というのが経緯でございます。
1:36:22	イトウになっておりますでしょうか。
1:36:26	はい、サグチです。いろいろ御説明いただいて、仰りたいことはわかるんですけど、我々が求めたのは、前回、
1:36:35	こう出してきたモデルの不成立と面積比だけを変えたものを出してねというそういうそういう単純なところですので、ちょっとそこを踏まえてですね、どうされるかはちょっと考えていただきたいんですけど。
1:36:51	いずれにしても、
1:36:55	結局どこで比較をして、最終的にモデルをこれとこれとこれを基準断層モデルになりますよってというのが、
1:37:07	あるとは思んですけどね。で、結局最終的な最終的っていったらいいのかどうかわかんないんですけど、255 ページで、
1:37:16	これは①②③も
1:37:20	ライズタイムこれ 60 秒で当然やっていて、ただし、
1:37:25	ほかのこれパラスタは実はゆるいらなかもしれないかもしれなくて、そうすると例えば日本海溝の特性化モデル特性化手法モデル③の敷地前面で 19.1 メーターってこれ実は出ちゃってるんですけど、本当はどうかわからないですよ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:45	本当はどうかって、ごめんなさい合意があるかもしれないですけど、これを例えば 182 ページとかと比べると、
1:37:52	これ、当然ながら、検討波源モデルAより今大きくて、でもこれがちょっと条件が違うので、さっきの、本当に 10、18. 幾つとかっていう数字になるかどうか、この時点ですよ、この時点でなるかどうかは、
1:38:09	ちょっとわからないんですけど、19 メーターを 18 メーターとか、
1:38:13	いずれにしても全然部、こうやっているんで、我々が求めているのはさっき言った構成率とかちゃんと教えてくださいって話ですので、例えばここでもし超えて、じゃあ、そういうのも踏まえた上で、
1:38:29	例えばですよ。日本海溝の特性化モデルについてもさ、最後までちょっとパラスタをした結果、どうなるかっていうのを比較した上で、基準断層モデルを選定するとかそういう手もあるのかなとか思ったりもするんですけども。
1:38:47	いずれにしても、今のやり方だと。
1:38:50	この検討波源モデルAからDの妥当性っていうのが、
1:38:55	何をもって示すかっていう
1:38:59	検討波源モデル①から③で、本当は示すたいんだけど、結局それもよくわからない御社のオリジナルになってしまってたので、
1:39:09	妥当性も確認ができないんですよ。
1:39:12	そうすると、
1:39:13	このままで、少なくとも会合やろうとすると。
1:39:17	せっかく最終的にがあの津波の高さがどれぐらいなるとか、
1:39:22	さらなる不確かさを考慮してこうしましたって言われても、
1:39:26	やっぱりこのまだ検討波源モデルの妥当性というところでそれを
1:39:31	より先っていうのは議論できなくて、
1:39:35	まだこの検討波源モデルAから今回一つ追加されてDもありますけど、このモデルについての妥当性までしかやっぱり議論できないと思いますので、ちょっとそこはですね、どういう形がいいかわからないんですけど、御社少なくとも
1:39:51	検討波源モデル、ごめんなさい。①から③についてもですね日本海溝の特性化手法モデル、これ結構パラスタまでやっているんで、何かそこをきちんとですね整理をしてですね。
1:40:05	で、最終的に基準断層モデルっていうのは、これところところであって、最終的に
1:40:12	プレート間、
1:40:14	地震による津波。
1:40:16	という評価はこうだというのをきちんとやっぱり示していただかないと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:20	ちょっと我々は、
1:40:22	会合までもいけないですし、そこでの議論を
1:40:26	できないかなと思ってます。
1:40:33	中部電力アマノでございます。ご指摘は、
1:40:36	理解しておるんですけどね、231 ページ。
1:40:44	を説明している通りで、もともとこの日本海溝のモデルを 150 秒でスタートはさせてるもののサグチさん御指摘の通り、やっぱり 60 秒えっちゃんと憲法としてこのオレンジの内まで持ってきてますよと。
1:40:59	いうところでこれ基準断層モデルと同じレベルまで、滑り量とライズタイムの関係を持ってきているとその結果が
1:41:11	例えば 235 の結果になっていて、
1:41:16	ここを見ていただければ。
1:41:19	非常になさモデル 1 のほうがライズタイム 120 秒であるのに、日本海溝モデルのライズタイム遅れ秒をより短い時間でやっても結果としては、
1:41:31	基準断層モデルの大きいというところの妥当性っていうのは示せてはいると思うんですけど。
1:41:41	はい、サグチです。だからそれがだからどこでって話ですよこれってあくまでも詳細パラメータスタディを行った後の話ですよ。
1:41:49	逆に言うと、この 235 ページで示されている。これ検討波源モデルAとかD／本当PCもあるんですけど、これって、120 秒じゃなくて 150 秒じゃないのと比べるならっていう
1:42:04	そういういろんな多分このステージで、
1:42:09	比べるかによっても当然違うんですけども、何かそういうところをきちんとですね整理をしていただいて、最終的には、今のこのモデルでいいのかもしれないんですけど、そこに多度志たどり着くプロセスがですね。
1:42:23	やっぱり今ちょっとよくわからないんですよ。
1:42:26	で、先ほども言ったように、なぜこの特性日本海溝の特性化手法モデルの①から③というのは最初から 60 秒を使ってやらないのかというそこですね。
1:42:39	それは 177 である通りで面積市町で剛性率一緒に滑り量が概ね同じで、そこだけ障害者同じもんで比べて規制庁サグチですけども、
1:42:55	もうそこはもう議論になるので、
1:42:59	特にちょっとその辺りの説明性が我々の方になるということが理解いたしましたが、ずっと前々から言っているように手法とモデルはセットですので、
1:43:10	それは日本海溝の今週方っていうのは確実にライズタイム 60 秒と今の滑り量分布、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:18	これはセットでないと、やっぱりそれでもって妥当性が確認審査での妥当性が確認されたものですから、そこをですねそれを踏まえた上で、じゃあ逆に
1:43:31	というですね、じゃあなんでこの 150 秒とかでやっているのに、わざわざ滑り量を落として、この滑りオオノ調整係数みたいのありましたよね。
1:43:42	こんなやる必要があるのとか、
1:43:44	そういう話が多分出てくるので、そういうのも含めて、だからライズタイムとの組み合わせもいろんなこうパラメータあるんだけど、それがセットで妥当性が審査では残存ず妥当性を確認しているので、
1:43:59	ちょっとそこを踏まえてですね。
1:44:01	やっぱり説明だけで済む話かもしれないんですけど、そうじゃなくても結構ちょっとその辺りはちょっと道筋をですねきちんと整理をしていただきたいと思います。思います。
1:44:12	よろしいですか。規制庁ナイトウですけども、このね、浜岡のプレート間津波。
1:44:19	の評価って、さっきも議論あったけど、最初、
1:44:24	もう 2 年以上前になるんだけど。
1:44:27	内閣府のモデルでパラメーターを位等より保守的に振ったものとしての参考のものっていうのがあって、じゃあそれ遅いそれを採用すべきじゃないんですかっていう話を 1 回した後に、
1:44:43	いや、自分たちのモデルって、それに基づいて知見に基づいて津浪の評価をきちんともう一度説明させていただいてもゼロリセットでまたスタートしたわけですよ。
1:44:57	で、その図で自分たちの中部電力のモデルというのは、妥当性っていうのを、それは確認しなきゃいけないから、じゃあ土木学会手法なり規定すでにある手法でやったらどうなのかということと、
1:45:12	あとは日本海 311 の津波でもって、すでに検証されている手法を当てはめたらどうなるんですかとそれとの比較をした上で、
1:45:26	中部電力独自モデルということの妥当性をきちんと説明してくださいという話で、
1:45:32	進んできているはずですよ。
1:45:34	その部分で、よ良い等や土木学会の手法ではなくて違う部分もパラメーターの設定をしますとかですね、日本海で検証されているモデルのやつで南海トラフに持ってくるんだったらやっぱりこうふうにするとか、自分たちでは、
1:45:51	いいと思うので、そこ以上ですって言ったらそれぞれが全部中部電力モデルなんですよね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:57	中部電力モデルの妥当性を説明する中部電力モデルで説明をしますと言われても何も説明しているのかわかんなくなっていて、
1:46:07	そこはよく整理していただけますか。
1:46:16	中部電力アマンでございます。はい、ナイトウさんおっしゃることよくわかりました
1:46:22	もともと 225 ページへも説明してますもずっと運営前から御説明させていただいていた仲間当社独自モデルと申し上げてはいるものの、検討波源モデルA というのは、実質は内閣府、
1:46:38	に対して、
1:46:40	それが載っちゃう滑り期を見たり、一応パラスタしたりってところで基本的な滑り量の考え方っていうのは変わらなくて最初に森が申し上げた通りでいい名前の 22.5 と、今回に中身として何も変わりがないと。
1:46:58	いうところで、また踏査。
1:47:01	そしてそこを吟味したモデルという評価で今説明させていただいておりますので、少しその費用を
1:47:09	要望というか、検証されたモデルっていうものとの比較の仕方、妥当性の示し方っていうのは、もう少し説明性上がるように少し考えますすいません今は知見として織り込んだので、御指摘というか御確認いただいた通りで、
1:47:27	全部中部電力の試行でやって 7 個全部見なきゃいけないっていうことは重々承知いたしました。
1:47:40	すいません中部電力の森です。
1:47:45	16 ページでサグチさんがおっしゃられたその検討波源モデルの妥当性ということに関連してなんですけれども、今回 116 ページで検討波源モデルのNo.2 コメント回答ということで、検討波源モデルの設定と。
1:48:02	日本海溝の関所ことで検討波源モデルと概略パラメータスタディ詳細パラメータリストなり、すべてやった中の検討アマン津波評価の妥当性という意味で左側の検討波源ものに対して、
1:48:18	特性化モデルの概略パラメータスタディ詳細パラメータスタディというのを実施して
1:48:26	どちらの津波評価のほうが影響があるかという観点でパラメタされるまで実施した上で妥当性比較しているというのが、
1:48:36	今回の説明資料の構成になっておりますので、ちょっとこういう示し方ではないんじゃないかという御示唆だというふうには理解しております。
1:48:46	よろしかったでしょうか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:50	はい。サグチですけども、ちょっとそのやり方を含めてですねちょっとどうどういう道筋を立てるのかちょっときちんと整理をしていただきたいんですけど、少なくとも今の例えば 12 ページとかもこの全体概要のフロー図とかは、
1:49:05	そうになってないですよねっていうのが 1 点。
1:49:08	で、116 ページの
1:49:11	これを見ると、全部をやった上で比較をしますよって確かにそれはそれで何っという
1:49:18	で、だからそこも含めて、どの段階で、
1:49:23	妥当性確認をしますか。
1:49:27	いう話なんですけど少なくとも今の資料っていうのは、この 12 ページをベースにやられていたからこそ、日本海溝の特性化手法モデル①から③というのはライズタイム 150 秒から始まって、これは別に 60 秒でやれば済むだけの話ですね。
1:49:46	もしこの 116 ページのベースにしてですね、やるのであれば、
1:49:52	最終的に概略とか詳細パラメータも含めてやるのであれば、別に日本海溝も出て 60 秒でそのまま最初から最後まで行くだけで、
1:50:01	何も変わらないですよ、最終的に比較するんだったら、
1:50:05	とは思んですけど。
1:50:09	だから、そんなことも日本海溝の特性化手法モデルというのに 150 秒というライズタイムが出てくるのがちょっとよくわからないと。
1:50:20	いうところなんでそこを含めてですね、ちょっと整理をしていただきたいと思います。
1:50:26	中部電力の森です。よく理解できました。12 ページに全体概要を示させていただいてまして、今
1:50:35	妥当性確認という赤矢印がここにあること自体で大分誤解を招いてしまったかなというふうに思っております。気持ちとしましては、
1:50:45	日本海溝の特性仮称モデルがあって、右側のほうに矢印伸びているかと思うんですけども、概略パラメータスタディ照査パラメータ数字を実施しておりますので、この部分も含めて、妥当性確認をしているというような気持ちには改定を行ったんですけども、ちょっとそこが
1:51:03	終わってないのかなということと後先に今言われたようにその 150 名のモデルは日本海溝のほうにはないということも含めまして、少し構成を検討させていただきます。また今回下のほうに内閣府の最大クラスモデルをコメント回答として入れ込んで、
1:51:22	おります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:25	ここからさらなる不確かさの考慮ということで、自分たちの
1:51:29	上からあります各種パラメータの網羅的転倒による方法の中に織り込んで評価をしておりますので、そういう意味では内閣府モデルとの比較という意味でも妥当性自分たちのモデルの妥当性では言っているのか、いえるのではないかなというふうにもちょっと思っております。
1:51:45	以上です。
1:51:54	はい、サグチです。なので、ここをしっかりとですね、整理をしていただきたいと思っておりますので、
1:52:01	次回会場に向けて、ちょっと
1:52:05	きちんと整理をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。
1:52:19	ナイトウですけれども、いずれにしろ、前回会場で説明していただいたモデルのパラメータを変えるのであれば何で変えるのってどういう結局さっきも言ったように、土木学会なり、
1:52:34	ねえ。
1:52:37	今回の
1:52:41	検証された。
1:52:42	モデルのパラメーターを中部電力として、
1:52:48	考えがあつて帰るといふ、
1:52:51	モデルになっちゃってるんで。
1:52:53	ですね、現状の説明だとかそうずっと今のままの説明の仕方をされるのであれば、何で検証されているモデル乗り確立されたモデルのやつのパラメーターをいじるのかと。
1:53:06	いうことも全部説明してもらわなきゃいけない。
1:53:09	わけですから、
1:53:13	それ説明しても結局最初に求めていた中部電力の特性化モデルの妥当性を確認するために確立されたり、検証された手法で、
1:53:24	きちんと説明してくださいっていうこと。
1:53:28	とは違うことを
1:53:31	コメント回答しようという流れになっちゃうので、そこは、
1:53:35	中部で修復して、
1:53:37	どういう形で自分たちの特性化モデルの妥当性を説明するのかっていうのももう一度中心に据えて論理構成で整理していただきたいんですけども、よろしいですか。
1:53:49	中部電力アマノでございます。ナイトウさんの

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:53	お言葉をしっかり理解いたしましたので、再整理して迅速にまたヒアリングのほうで御説明したいと思います。
1:54:15	そのモデルパラメータについてはおかしい。
1:54:18	規制庁サグチですすいません時間がかなり建ってしまったので、ちょっとしょうもないことかもしれないんですけど。
1:54:27	ちょっと資料の中で、例えばさ 37 ページで、
1:54:33	参考として他プラントの東北沖地震が他の基準断層モデルっていう講師資格の四つあるんですけど、これがですね、例えば、その次の 38 ページ、これ何か横軸、縦軸が微妙に違うからかもしれないんですけどなんか 1 つって本当に
1:54:54	これでいいんでしたっけっていうのと、
1:54:57	さらに行くとも 43 ページとかって、四つあったんですけど、三つ。
1:55:03	イシカワなくてこれはあくまでも今回
1:55:06	妥当性確認のために用いているモデルを三つ使ったっていうだけなんですけど、なんでこの一番左に合ったライズタイムの小さいやつって、今回は今回というかこれまでも含めて外して外したんでしたっけっていう。すいません、ちょっと素朴な疑問で、
1:55:24	なんですけど。
1:55:27	中部電力アマンでございます。30、
1:55:30	7 と 38 はおっしゃる通りちょっと基準化した軸なのかどうかの見せ方の違いだけなんですけど、43 べい左のがなくなっているのは、
1:55:42	日本海溝で、
1:55:45	何であの手法というのが、
1:55:47	北のほうの会社のやつで、その左のやつをもう少し東京に近いところの
1:55:55	日本海溝全体を見ているわけじゃなくて茨城沖を
1:56:00	見ているところなのでここで比較対象ではなくてほかの M8 のちっちゃいのも割愛しているという意味で消しているだけでございます。
1:56:12	はいサグチ座るありがとうございます。わかりました。
1:56:40	規制庁サグチですすいませんちょっと
1:56:43	冒頭に、
1:56:44	その資料の作りとか
1:56:48	受け渡しも含めて、
1:56:49	紙等をちょっと展示が違ったということもあってあるんですけど。
1:56:55	地なちなみになんですけど、
1:56:58	ちょっと私今回かなりですね御社の評価が変わったということもあって、入念にチェックをしたんですけど。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:07	特に御社から
1:57:09	今回御説明なかったんですけど。
1:57:11	特に前回会合で、
1:57:14	評価とか、
1:57:17	特に数字とかが間違っていたというような部分でなかったですか。
1:57:28	中部電力の加藤でございます。
1:57:30	本体資料のところで、あの結果が間違っていたという形で表記が少し正しくなかったところがございます、
1:57:38	まず、
1:57:52	249 ページをお願いします。
1:58:13	ナカタすみません。ページ番号で 225 ページをお願いします。
1:58:24	こちら 225 ページなんですけれどもちょっと説明申し上げました省略させていただきました上方一部修正となっております、その何を変えたかといいますと、こちらパラメータスタディの影響検討ということで、変動幅の算出根拠出しているところですが、
1:58:41	それから表が四つありますが下から二つ目のライズタイムのパラメータスタディの結果というところの
1:58:46	12 号取水槽の結果と 3 号取水槽の結果のうち、えっとライズタイム 150 秒、180 秒、120210 秒のところ、
1:58:57	まず 1 の取水槽のところは 150 秒が 4.5、180 秒も 4 点も 210 秒 4 ても、
1:59:04	なっております。これ、
1:59:06	前回は 4.4 となっております、
1:59:11	これ 4.5 に変えた理由としては、前のページの 217 ページをご覧いただきたいんですけども、
1:59:23	こちら 217 ページが来へと検討波源モデル基準断層モデル位置の詳細パラスタ結果なんです、ライズタイムの不確かさそこコールということで、上の表にあります通り 12 号取水槽については、
1:59:35	150480 用に約 10 秒が 4.5 が正しい結果になっておりますんで、225 ページ前回まで 4.4 となっていたのはちょっとクリア数値の繰り上げの処理がこれまで正しくできていなかったことを今回
1:59:50	エーツにつきまして正しくて、数値のほう適正化の方さしていただきました。
1:59:55	それからその下の 3 号取水槽につきまして、こちら、
2:00:00	150mmの結果は 7.0 というふうになっておりますけれども、
2:00:04	同じく 200。
2:00:15	はい、217 ページをご覧いただきたいんですけども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:18	ちょっとこちらも上のライズタイムの不確かさ港のところで、
2:00:22	ライズタイム 108 のところは 7.0 となっておりますが前回まではここに 125 ページのところは 6.9 となっておりますので、こちらちょっと繰り上げの関係で 7.0 に今回挙げさせていただいております。
2:00:36	続きまして 226 ページになりますけれども、こちら基準断層モデル 2 の変動幅の算出根拠になります。
2:00:44	こちら表、こちらライズタイムのパラスタ結果の表になるんですよ。けれども、上から二つ目で、
2:00:50	3号取水塔の数値が 120 秒から 180 まで 12.55、12.6012.55 となっておりますが、
2:01:02	これ、前回までは滑り 12.6 となっております。
2:01:05	同じく 4号取水塔についても 150 秒のライズタイムと 180 のライズタイムの結果が今回 12.592.52 というふうになっておりますけれども、こちら前回まですべて 12.6 というふうになっておりました。
2:01:19	またページ戻っていただき、いただきまして 218 ページになるんですけども、
2:01:27	こちらと同じく、基準断層モデル 2 の詳細パラスタの結果でして、
2:01:31	先ほど申し上げました 3号取水塔のライズタイム 120150180 秒、それから 4号取水塔の 154 結果こちら前回すべて 12.6 となっております、以前のし得た会合で
2:01:45	いう同じ数字があるものにつきましては大小関係課を明確にするように、ご指導いただきましたので、今回の大小関係が明確になるように、小数点不タケヤマで表示させていただいたということでございます。こちらちょっと評価替えたということではございませんで、
2:02:01	ちょっと表記が正しくなかったことと適正化させていただいたところでございます。
2:02:06	説明のほう省略させていただきまして申し訳ありませんでした。
2:02:09	以上です。
2:02:10	はい、規制庁作成御説明ありがとうございました。多分そうということ欧米の切り上げとか、そういうところは、
2:02:20	適正化っていうところと、当然わかりづらいとは小数点以下もうちょっとふやすとか、当然そういうことは必要ですので、的にやっていただいていたのは全然問題ないと思います。
2:02:34	一方で、
2:02:36	どことは言いませんけれども、
2:02:39	ちょっとモデルの

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:42	中で補足なんですけど。
2:02:45	モデルの中で、以前、
2:02:48	滑り量はこうだったんだけど、ちょっと間違ってる、
2:02:52	修正したところでありますよね。どうどことは言いませんし、別に説明はしなくてもいいんですけど。
2:03:00	なので、やっぱりまだヒアリングの段階なのでっていうのもあるんですけど。
2:03:06	ちょっと会合資料が違うっていうのはやっぱりどっかなんていうのもあるので、非常にたるが多くてですね、大変なのはわかるんですけど、ちょっとその辺りも、これまでも
2:03:18	結構何回か繰り返して言ってますけど、ちょっと品質保証とか品質管理のところは、
2:03:25	ちょっと徹底していただきたいと思います。
2:03:29	中部電力アマンでございます。大変申し訳ございませんでした。おそらくデータ集か何かだと思いますが、
2:03:37	大変ボリュームも多くて、エクセルでつくったのはあると端数が0待ちちゃったりするところへ投資しっかりチェックしてるつもりなんですけど、どうしてもそういうところがあるので、しっかり審査会合出すまでにきちんと審査会布田層の対比ヒアリング出すまでもしっかりと見て参りますと、
2:03:55	申し訳ございませんでした。
2:04:11	規制庁のニシキです。
2:04:13	規制庁学科からは大体コメント家庭づくりだところかと思えます。それではもう一つ今日は津浪堆積物に関する調査のほうの資料もご用意いただいたんですけども、ちょっと今確認ですってちょっと時間が結構かかってしまいました。
2:04:31	予定の6時にちょっと来てしまいましたので申し訳ないですけども、津波堆積物に関するところのコメント回答につきましてはまた次回にさせていただければと思います。
2:04:45	中部電力アマンでございます承知いたしました次回今日ご確認いただいた内容でもう少し妥当性を示すところ、しっかり人を構築した上で御説明させていただく際にまた堆積物のほうもあわせて、
2:05:02	御説明をさせていただければと思います。
2:05:06	はい、規制庁ニシキです。よろしく願いいたします。
2:05:11	最後規制庁側から何かありますか。
2:05:16	大丈夫です。よろしいですか。
2:05:18	はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:19	それでは本日のヒアリングのほうをこれにて終了したいと思います。ありがとうございました。
2:05:26	ありがとうございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。